

## キノコの栽培技術を学ぶ

美濃 インドネシアから県森林研へ

日本のキノコ栽培の研究技術を学ぶと二十八日、インドネシアのガジヤマダ大の職員三人が県森林研究所(美濃市曾代)へ研修に訪れた。研究所員らと意見を交わし、一連の栽培ができる実習棟を見学した。

国際協力機構(JICA)が進める「草の根技術協力事業」の一環で、インドネシアのキノコ生産者を支援しようと、名古屋大や研究所が共同で企画した。研修は昨年に続き二回目。

先月にはガジヤマダ大で、菌床に使われるおが粉の製造から実際の栽培まで

ができる「おが粉キノコ支援センター」が開所。センターを拠点に、現地の木材加工業者やキノコ生産者に、キノコ栽培に関するノウハウを教え始めた。

一行はこの日、研究所員との議論を通して、センターで教える菌床栽培の技術や、施設の運営・管理方法について学んだ。同大森林学部で講師を務めるガニス

・ルクマンタルさん(四七)は「インドネシアのキノコ栽培にはまだいろいろな問題がある。生産者に技術を伝えて成功させたい」と話した。九月一日まで県内に滞在し、おが粉の製造業者やキノコ生産の現場を見学、調査する。

(華原士文)



研修に訪れたガジヤマダ大の職員3人(左から) 美濃市曾代の県森林研究所で

岐阜県森林研究所ホームページ掲載期限:令和6年9月11日

この記事は中日新聞社の許可を得て使用しています。